

「魔法のダイアリー」プロジェクト最終成果報告会

趣味と生活の安定を図る 永続的なQOLの向上

大分県教育センター
指導主事 岡本 崇

本実践の対象者は、実践者の弟「ひでおじちゃん」

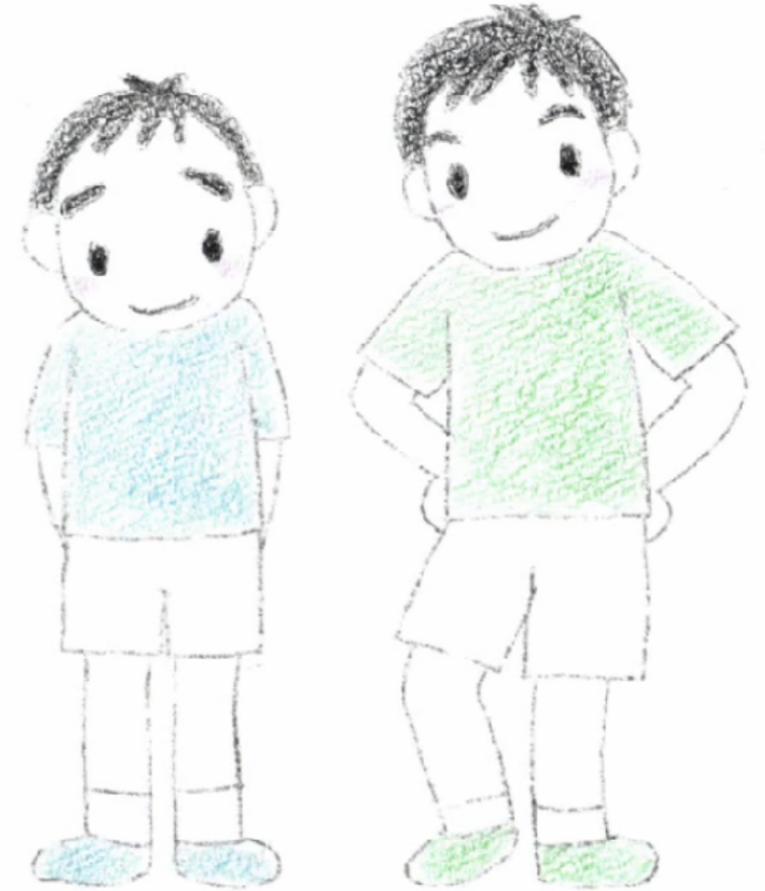
現状はほとんど問題ない
本実践を行ったのは、
「これまで」と「これから」
の長期的な展望がある

対象者である弟と兄である
実践者、その娘の物語

「子どものころは、いつもいっしょに遊んだり、たまにけんかしたりしたんよ。」

「へえ、ふつうだね」

「うん、ふつうよ。きょうだいだからほかの人よりもひでおじちゃんの言いたいことがよくわかったしね。」



わたしとパパとひでおじちゃん

1,424 回視聴



9



0



共有



オフライン



保存

YouTube 『魔法の啓発絵本』 チャンネル

「わたしとパパとひでおじちゃん」

<https://youtu.be/anPxPNiku-c>

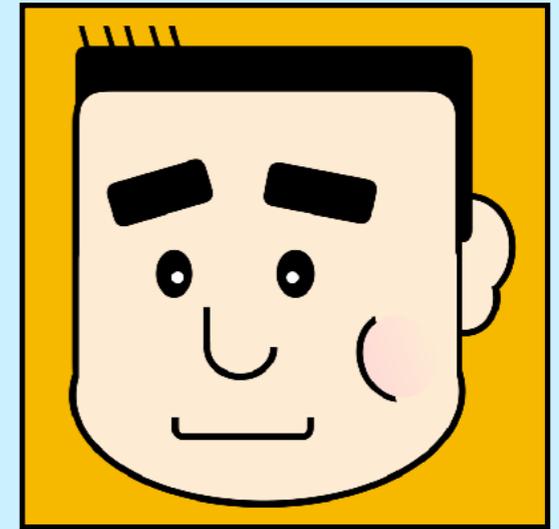


【対象者の情報】

○年齢 45歳

○障害名と生活の状況

- ・自閉症 障害者手帳 B2
- ・グループホームで月～金、自宅で土日の生活
- ・職業実習として、クリーニング会社で勤務



○現在の状況

<性格・行動・他者とのかかわりの実態>

- ・基本的に温厚で、親しい人との関わりを好む
- ・必要最小限の会話などが可能で、関わりに困難を生じる場面は少ない

<自宅での生活・社会生活・余暇利用に関わる実態>

- ・一定のパターンのある生活を好み、安定して生活する
- ・余暇は絵や文字を描いたり、VHS ビデオ鑑賞などをして過ごす
- ・母親と一緒に商業施設での買い物などをすることを好む
- ・両親とレジャー施設を訪れ、フィルム写真を撮ることを好む

生活の安定を支える「趣味」

好きな番組を撮りためた
数百本のビデオテープ

中学生の頃から撮り
続けている写真

平成31年版
笑点カレンダー

「生活と情緒の安定の基盤」
として機能。

同級生の保護者から「余暇
を楽しむ趣味があって羨ま
しい」と言われるほど安定
している。

30年以上購読しているテレビ雑誌



「隠れ困難」をはらむ中年期障がい者

～本人・保護者ともに気づいていない困難の存在～

【本人の隠れ困難】

- ・ 関わりの固定化による世間との隔たり
→ 興味・関心も狭くなるスパイラル
- ・ 「フォーマットのアナクロ化」と「コンテンツ自体のアナクロ化」
→ 選択肢の減少、消失

【保護者の隠れ困難】

- ・ 社会的交流の幅の狭まり
→ いわゆる「情報弱者」化による困難の拡大
- ・ 高齢化による「買い物難民」化や、災害時などの情報収集の難しさ
→ 親世代の困難は中年期障がい者の困難へと直結

事前に予見・理解しにくく、卒業後10年以上たった生活について、在学時にはほとんど考慮されていない

「隠れ困難」の状況（VHSビデオの活用）

【VHSを利用する問題点】

- ・ビデオテープの管理の問題(劣化、保管場所、持ち運び)
- ・ビデオデッキの故障や新規機種への購入の難しさ
- ・新規コンテンツがほとんど発売されない
 - 新しい分野等の広がりがほとんどない。こだわりを増幅
 - 見通しの立たなさからパニックになることがある



【支援の困難さ】 年に3~4回程度の頻度で不具合が発生

- ・保護者の機器への知識が乏しく、電話での対応不可
 - 実践者が訪問し、対面で実機を提示しながら対応
 - 非常に時間を要する

【新機器の導入の困難さ】

- ・「〇〇メーカーの型番△△番台の製品」という指名購入
 - 代替機の貸与が不可能
 - 新規のテクノロジーへの移行が困難に

『親しみやすく無理のない導入』のために

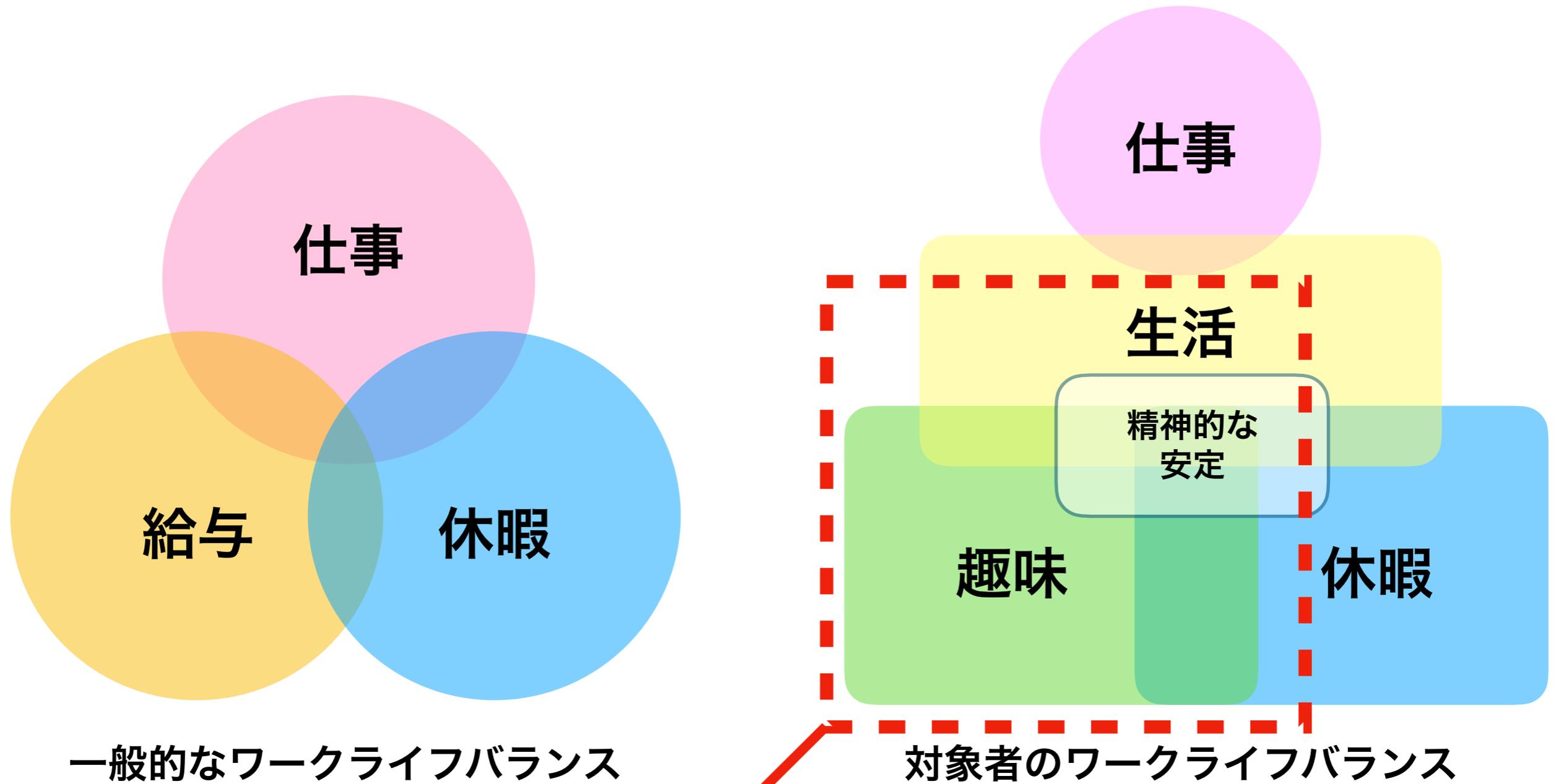
【成人障がい者への支援で最も重視すべきこと】

「対象者と親がこれまで生活してきた軌跡に最大限の敬意を払い、その生活スタイルの維持・継続を最優先する」

中年期の自閉症者にとっての「生活」とは、長い時間をかけて外界と折り合って育んだ、変更・代替が困難な文化・生活様式

これまでの経緯を丁寧に紐解き、分析する必要性

「過去の強み」が「将来の困難」へ



一般的なワークライフバランス

対象者のワークライフバランス

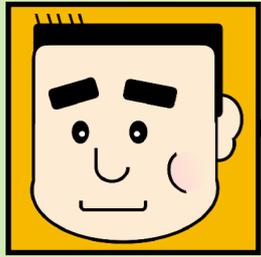
近い将来、入手やメンテナンスが不可能となる
機器の活用の存続の危機に直面→趣味と生活の柱を失う

1970年代

80年代

90~00年代

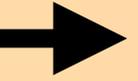
2010年代



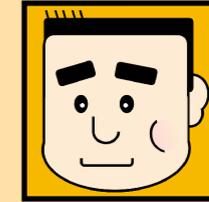
地域の小学校

養護学校

施設入所・就労支援



アナログ



こだわりなし



シャープ



National



SONY



SHARP

VHS

VHS

VHS



シャープ



SHARP



SHARP



メーカー等に強いこだわり

こだわりの傾向の解釈

基本的なライフスタイル・嗜好は在学期間中に確立する

→外部からの刺激、指導を受けやすい

→一旦確立したライフスタイルは、変更が困難

外部からの適切な刺激で新たな
ライフスタイルを確立できる可能性

ビデオデッキに強いこだわり、テレビは変化を受け入れる

→操作形態・リモコン等への変化への対応が困難

→受信・表示する「箱」であるテレビは受け入れ

操作系統などに独自性が少ないもの
であればこだわりが少なくなる

1970年代

80年代

90~00年代

2010年代

アナログ



シャープ



National



SONY

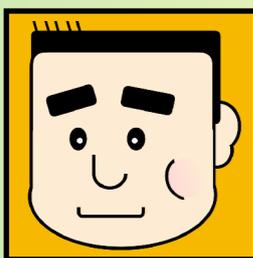


SHARP

VHS

VHS

VHS



シャープ



SHARP



SHARP

一般的な潮流

- デジタルメディア
→ ネット配信
- いわゆるテレビ離れ



1970～1980年代 電子機器第1世代「アナログ電子機器世代」

【特徴】 電子機器の大衆化・普及。メーカー毎の操作性の違い

【位置付け】 対象者が学齢期に普及。「3C」時代

「こだわり」の要因

1990～2000年代 電子機器第2世代「デジタル電子機器世代」

【特徴】 デジタルのCD、DVDなどの物理メディアでコンテンツを利用

【位置付け】 第1世代との共存状態。対象者が高等部卒業後に普及。

世間的にも現役。移行の必要感なし

2010年代～ 電子機器第3世代「情報機器世代」

【特徴】 スマートフォンの普及。物理メディアを使わずデータ・ネットで利用

【位置付け】 親世代は定年し外部との交流減少、ネガティブ報道でハイテク嫌い。

支援者自身がいわゆる「情報弱者」化

実践1：ビデオ視聴デバイスとしてのiPadの導入

【『永続的なQOLの向上』のために】

- ・対象者が永続的に趣味や生活を継続
 - ・親が抱える将来に対する不安を軽減
- 『永続的な』活用を身につけることが必要

→スマホ・タブレットはGoogleやAmazonなどのサービスを利用する「器」

→UIは共通で、機器そのものの操作性に依存しない

大手ネットサービスは、利用者の利便性を非常に重視しているため、UIが簡素

→UIの操作を覚えれば、機器の世代交代に関わらず対応可能

→サービスそのものは継続性が高いため、実質的に『永続的なQOLの向上』

※善し悪しは別として、いわゆる『GAFA』が中心となるのは当面変わらないと思われる

【導入のタイミング】

あえてVHSのビデオデッキがトラブルを起こしたタイミングで、
代替の機器としてiPadの使用を提案

→ビデオデッキではなく全く異なる形状・操作方法の機器を提案することで、
こだわりを回避することができると考えたため

【導入した機器】

- iPad Air
- Wi-Fi環境の導入(光インターネット)

【活用するメディア】

- Amazonプライムビデオ
- YouTube

※コンテンツの多様性から、使用するサービスを決定



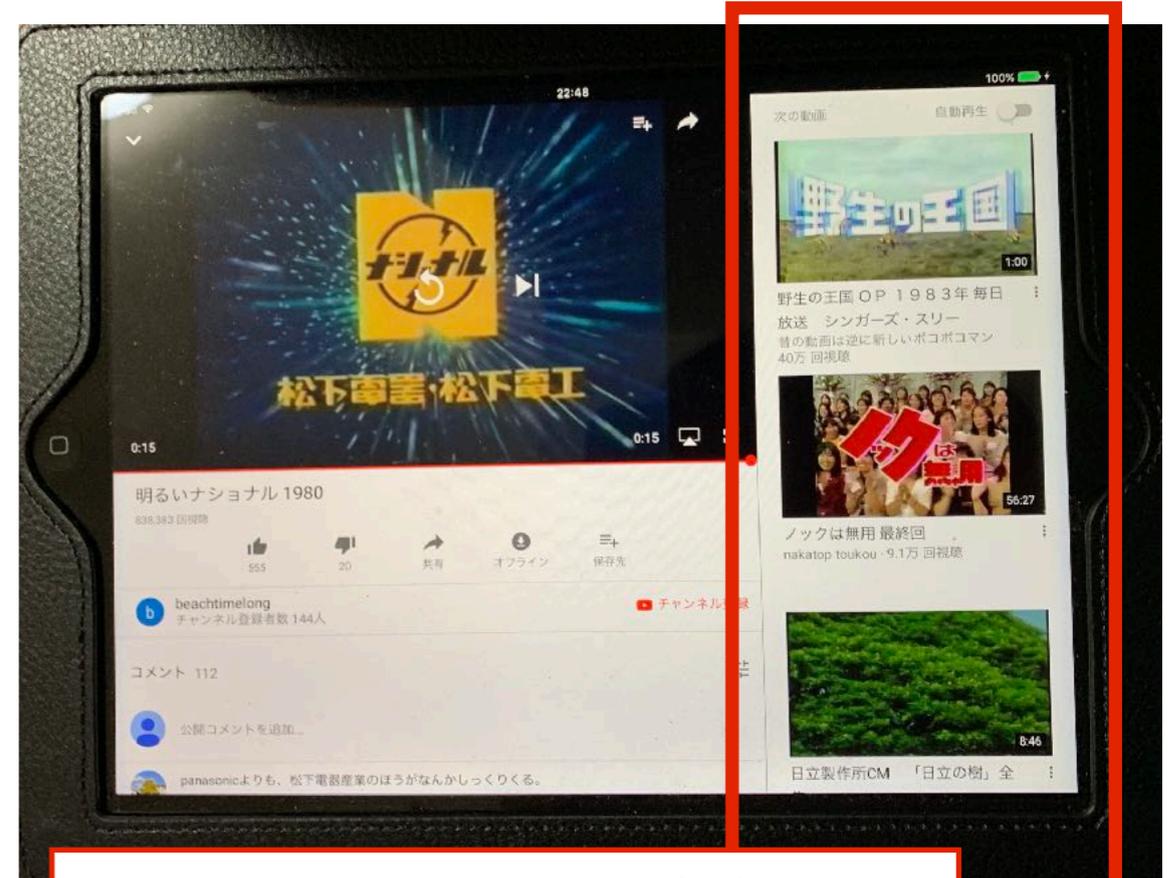
iPad Air

【実際の様子】

好みのタイトルを音声入力で検索して再生リスト化し、再生マーカーを指で移動させながら、再生時間カウンターで好みの場面を選び出し、再生する。



1ヶ月ほど使用した段階では、VHSビデオでの視聴は全視聴時間の10分の1ほどに減少



YouTubeのAIレコメンド機能による
興味関心の広がり

【導入後の様子】

非常にすんなりと導入することができた。

- ・ 「テレビ同様に視聴することができる」 iPadは、比較的自然而合理的であった
- ・ 音声による検索方法もストレスがなく、本人にとって自然であった
- ・ 本人も最新機器を使いこなしていることを「かっこいい」ととらえている

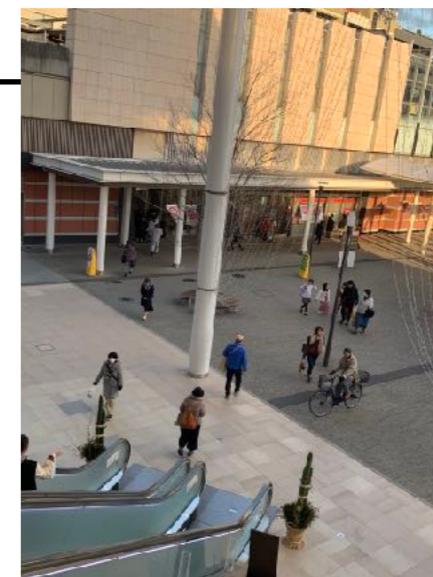
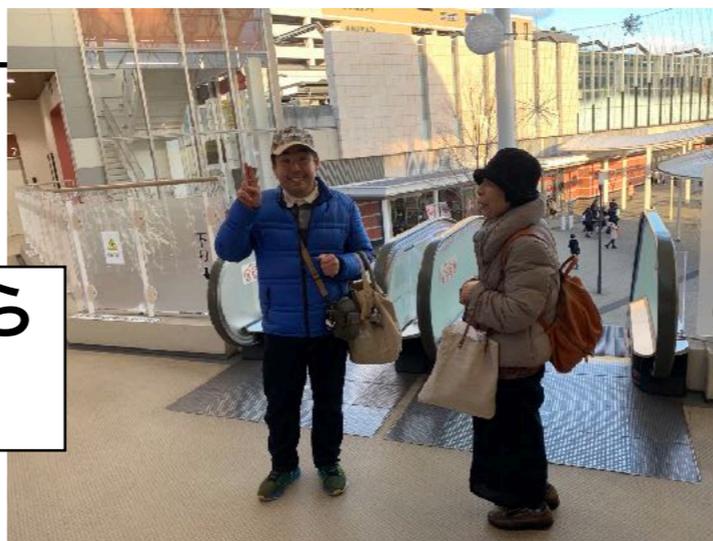
「隠れ困難」の状況（連絡手段のなさ）

- ・ 携帯電話を持っていないため、はぐれないために外出先が限られる
- ・ 本人の希望があり、行動上の課題が少ないにも関わらず、行動範囲や場所が親の目の届く範囲に限定される

「隠れ困難」の状況（フィルムカメラ）

- ・ DPE店舗の減少
- ・ フィルム購入の困難さ
- ・ 10年ほど前からデジカメへの置き換えを試み続けてきたが、「こだわりの強さ」からうまくいかなかった
- ・ 撮影したものを物理印刷して見たい（大きく見たい）ためデジカメの画面では満足できない

**本人も保護者も不自由な状況ながら
気づいていない**



実践2：支援機器としてのiPhoneの導入

【iPhoneの導入】

- ・ 連絡手段の確保、それによる単独行動ができる範囲の拡大で、対象者と親の双方の負担を軽減する
- ・ 「友達を探す」機能で対象者が単独行動をする際の行動パターンを見る
- ・ カメラアプリを利用することでフィルムカメラからの置き換えを行う
- ・ 地図アプリや検索アプリでの情報の提示



iPhone5s

iPhone導入の旅



行き先を「相談して」決定

義理の姉という、支援者として

「ちょうどよい」関係性

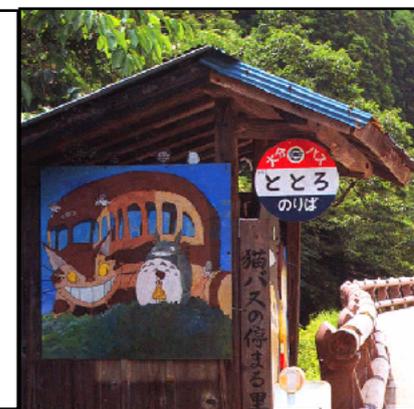
保護者だと、対象者主体で
決定するため、偏ってしまう



音声検索・写真撮影・AirDropのスキル修得



ととろのバス停(初めての場所)



道の駅 うめ (初めての場所)



わさだタウン(ショッピングモール)



父母や兄の意見は聞き入れないが、姉さんなら…



iPhoneでの「写真」撮影

【iPhoneでの撮影】

これまでデジカメへの移行を拒んできたが、「姉さんを撮ってAirDropですぐにあげる」というように、目的があれば使う



気になった
ささいなもの
も撮影
→フィルム不要
のよさを実感



居場所の確認・連絡手段の確保

建物内でおよその位置がわかればよい
→「友達を探す」機能で把握
階が変わる時には「電話」する



本人の行きたい所に「自由に」行けるよさの実感

自由に歩いてみると…



意外な店に行ったり、くつろいだり。
→行動範囲の広がりが興味の広がりに

実践3：遠隔での支援者（母親）の支援

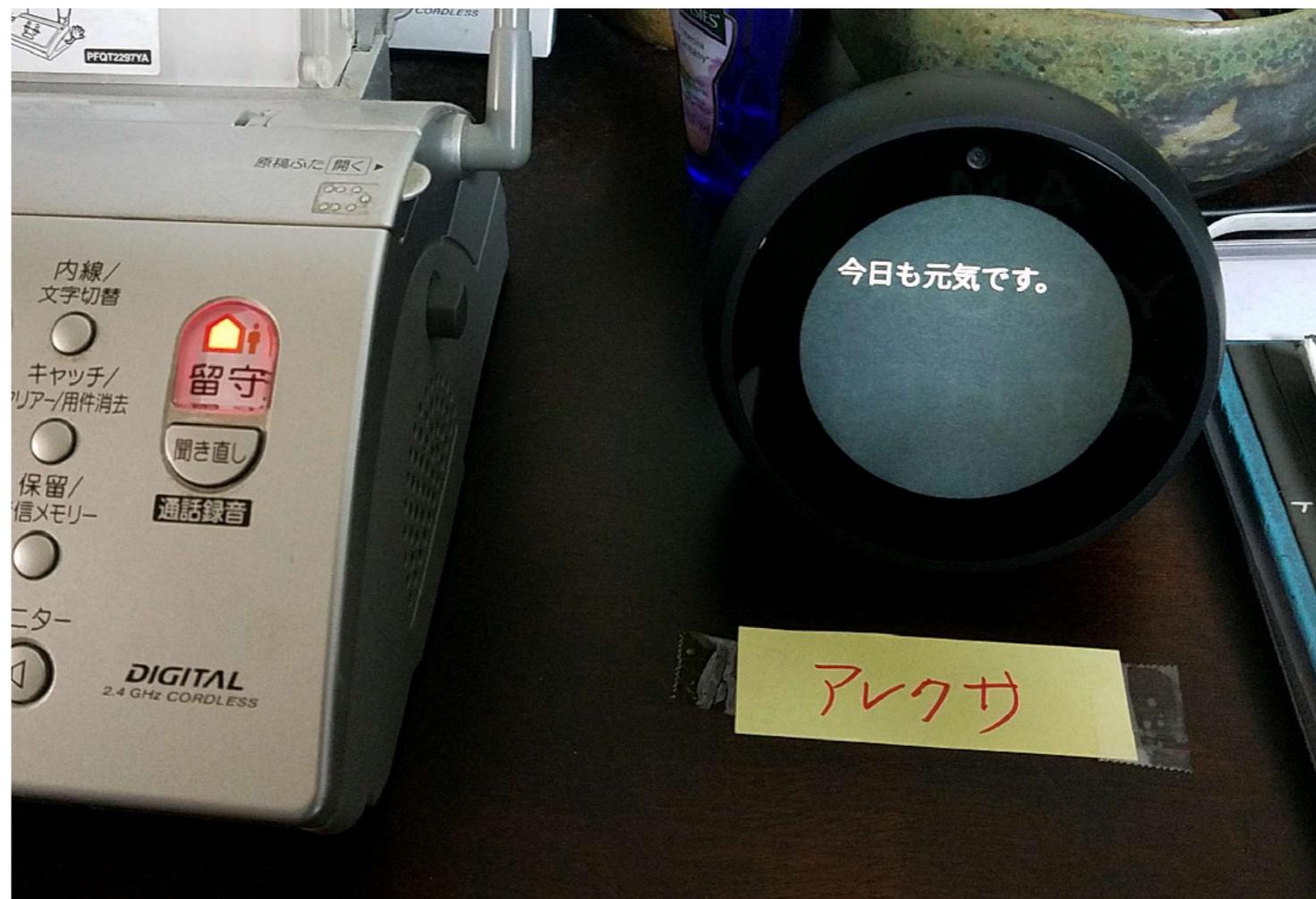


スマートスピーカー（Amazon Echo Spot）の導入

- ・カメラと画面を活用した、困った際のFace to Faceによる安心感を持つ会話手段の確保。ハンズオンでリアルタイムに支援や助言ができるような環境を作る



Amazon Echo Spot



ウェイクアップワードをメモして毎日（孫のように）話しかける

お互いに画面を見せ合いながらリアルタイム支援



将来的に、ネットショッピングなどでの活用を行い、
QOL向上(維持)を目指す

【今後の方向性】

スマートウォッチの導入

- ・ 時間・スケジュールの自己管理で見通しを持ち、ストレスを軽減する
- ・ 外出時のリマインド・タイマーとしての活用し、約束の時間・場所の履行の精度を向上することで、対象者と親の相互の負担を軽減する

母親へのiPhone導入

- ・ GPSでの管理、移動データのロギング
- ・ 「Moves」などの自動的に移動場所をロギングするアプリで、対象者がどんなことに興味があるのか、何を好んでいるのか、どのくらいの時間を要するのかなどの把握ができるようにする

無理に「完全移行」する必要はない

- ・ 選択肢を増やし、世間の流れに沿って円滑に移行できるようにする

「今」だけでなく本当の意味での「将来」を想定

- ・ 完全に30年後を予測することは難しいが、置き換え可能な選択やそのための方策・支援者を想定しておくことが必要

学びの連続性

特別支援学校を卒業して30年近く経っているが、
「学び」への意欲と喜びはずっと続く

